

とろろと 人藪室

花いっぱいのおまちを願い
花を育てる楽しさを伝えたい



フラワーマスター
矢野 隆平さん

「植物も命ある生き物。愛情込めて育てると必ず応えてくれます。種から芽が出て、茎が伸び、きれいな花が咲く。花の成長過程は、いくつになっても心がとぎめく」という矢野さん73歳。花を見つめる視線は、やさしさに包まれている。

矢野さんは、花の育成管理や花づくりの知識、技術を持つフラワーマスター。知事から約1千700人が認定され、市内では12人がボランティアで活動している。主に、園芸教室の講師や町会などの花壇づくりのアドバイザー、個別相談にも応じて、花のまちづくりのリーダーとして活躍している。

「花を育てるには、日当たりの良い場所、新鮮な空気を与えることが大切。早く育つと水をたくさん与え



4月14日に行われた「春の園芸教室」で、苗の選び方や元気な育て方などを、市民など約70人にアドバイス。

り、病気になるまいよう化学肥料を与え過ぎると、根がいたみ花が咲かないことがある。花は、毎日のていねいな世話によってきれいに咲き誇る。そんな「花の恩返し」を楽しんでいると矢野さんは呼びかけている。

また、矢野さんは、植物を元気に育てるには「土が大事」と力を込める。土の中に雑草や生ごみを半年ほど寝かすだけで、良質なたい肥ができるという。その極意は長年の研究の成果だ。

春が訪れ、店頭の花の苗が並び季節。矢野さんは「種から育てて、咲き誇る姿を想像しながら成長を楽しむには、サルビアやマリーゴールド。苗から育てるならパンジー、デージーがお勧め」と、花のある暮らしを推奨している。

フラワーマスターへの質問は、都市計画課公園係 ☎ 26033 までお問い合わせください。

発行日/平成19年5月1日 通巻/914号
印刷/日光・文成堂富士総業共同企業体

ごみの出し方を再確認！

ごみ収集車両の火災は間違ったごみの出し方が原因

《詳細》リサイクル清掃課 ☎ 21481

最近、ごみ収集車両の火災事故が増えています。卓上用ガスボンベやスプレー缶などから漏れたガスに、同時に回収されたガスレンジなどの着火装置が作動して、収集車が火災になることがあります。人命にかかわる大事故を防止するのは、ごみを出す市民がルールを守ることです。ごみは適切に出すようご協力をお願いします。

ごみを出すときのルールを守りましょう

- 卓上用ガスボンベ、スプレー缶など**
完全にガスなどを使い切り、缶に穴を開けてから出してください。
- ライター**
完全にガスを使い切ってから出してください。



燃えたごみを消火する消防隊員

- ガスレンジ、湯沸かし器、石油ストーブ、ファンヒーターなど
着火用の電池を取り外してから出してください。



※石油ストーブ、ファンヒーターなどは、必ず灯油を抜いてください。

軽自動車税は5月31日までに納めましょう。お支払いは便利な口座振替を。

